

重要文化財（建造物）

- ・指定名称 草薨家住宅（くさなぎけじゅうたく）
- ・指定年月日 昭和50年6月23日
- ・員数 2 棟
- ・所在地・所有者 田沢湖生保内字下堂田18 個人



草薨家住宅は、主屋に土間（馬屋）をL字形に接続しているいわゆる曲家形式の大規模上層農家建築です。

この形式は県内では仙北地方に分布がみられ、中門造（ちゅうもんづくり）との違いとしては入り口がL字形平面の入隅付近に設けられる点にあります。土間の内側1間を吹き放しのトオリとすることで折衷的な面がみられます。

土間と主屋の建築には年代差によるものか、外観の意匠に違いがみられます。大戸口を入るとダイドコロ前からナカノマまでトオリ土間をとっています。ダイドコロでは重厚な二重梁とその上部の小屋組をみることができます。太い柱、差物など丁寧に仕上げられ、幕末頃の上層民家の雰囲気をよく伝えています。

（秋田県教育委員会編 「秋田の有形文化財」より）

市有形文化財（建造物）

- ・指定名称 戸沢家住宅（とざわけじゅうたく）
- ・指定年月日 平成11年3月15日
- ・員数 1 棟
- ・所在地・所有者 角館町川原中川原25 個人



戸沢家住宅は、約140年前の農家で当時の棟札（矢板、矢のみ残存）に記録されていたと伝えられているが、現在は馬屋を残して主屋は昭和17年に改築されている。

屋敷は広い水田に囲まれた長方形で、そのほぼ中央に主屋を位置しているが、西側に植林されている古いモミの木は200年以上とのことであるから屋敷の造成もその頃と考えられる。

主屋は寄棟造、茅葺、クラカケ9個、四方下屋造で軒はせがい、軸部は小壁以外に壁はなく、柱下は礎石、外周のみ土台、平面は整形四間取、土縁。

間取は昭和17年以降大きな変化はないが、それ以前は主屋の背面の縁は存在しなかった。古民家にみられる土間はなく「ダイドコロ」「シタダイドコロ」は板敷であり、馬屋「マヤ」は馬を飼わなくなったところから改造されている。柱間は馬屋が7尺である。

（元東北大学教授 坂田泉編著 「図集 角館の建築」より）